

2040独立自尊プロジェクトシンポジウム / MUFG寄付講座特別授業

多死社会における 魂と肉体の再生

日時

2022年12月19日(月)
14:00~15:30

programme プログラム

・開会挨拶・演者紹介

・対談

養老孟司

(東京大学名誉教授、解剖学者)



養老孟司

釈 徹宗

(相愛大学学長、宗教学者、僧侶)



釈 徹宗

モデレーター：澤井敦

(慶應義塾大学法学部教授)

・ディスカッション

・閉会挨拶

総合司会：鳥谷真佐子

(KGRI 特任教授)

日本では2030年代以降、年間死者数が150～160万人台で推移するという多死社会化が予想されている。多死社会においては、現在よりも死に関する議論が活発化し、我々は死をとらえ直す必要性に直面するだろう。死は肉体的なものである一方で、魂と切り離せないものもあるため、死をとらえ直すことは肉体と魂を再考することでもある。

このシンポジウムでは、解剖により肉体をとおして「死」を考えてきた養老孟司・東京大学名誉教授と、僧侶、宗教学者として宗教や魂をとおして「死」と向き合っている釈徹宗・相愛大学学長とともに、「死」「肉体」「魂」に関する考え方が多死社会ではどのように変わっていきそうか、日本や他の社会における死生観の変遷も交えて議論する。

場所

オンライン：[慶應義塾大学三田キャンパス東館G-labホール](#)
オンライン：[Zoomを用いたオンライン配信](#)



[会場]

申込

【会場参加】
<https://kgri2040pj-1219os.peatix.com>



[Zoom]

〆切

2022年12月16日(金) 11:00